

仲間づくりと地域貢献



全国ボランティアフェスティバルTOKYO

【分科会】社会人ボランティアやプロボノを広げる仕組みを考える

2011年11月13日(日) 青山学院大学

はじめまして

富山
プロボノカフェ

代表世話人の

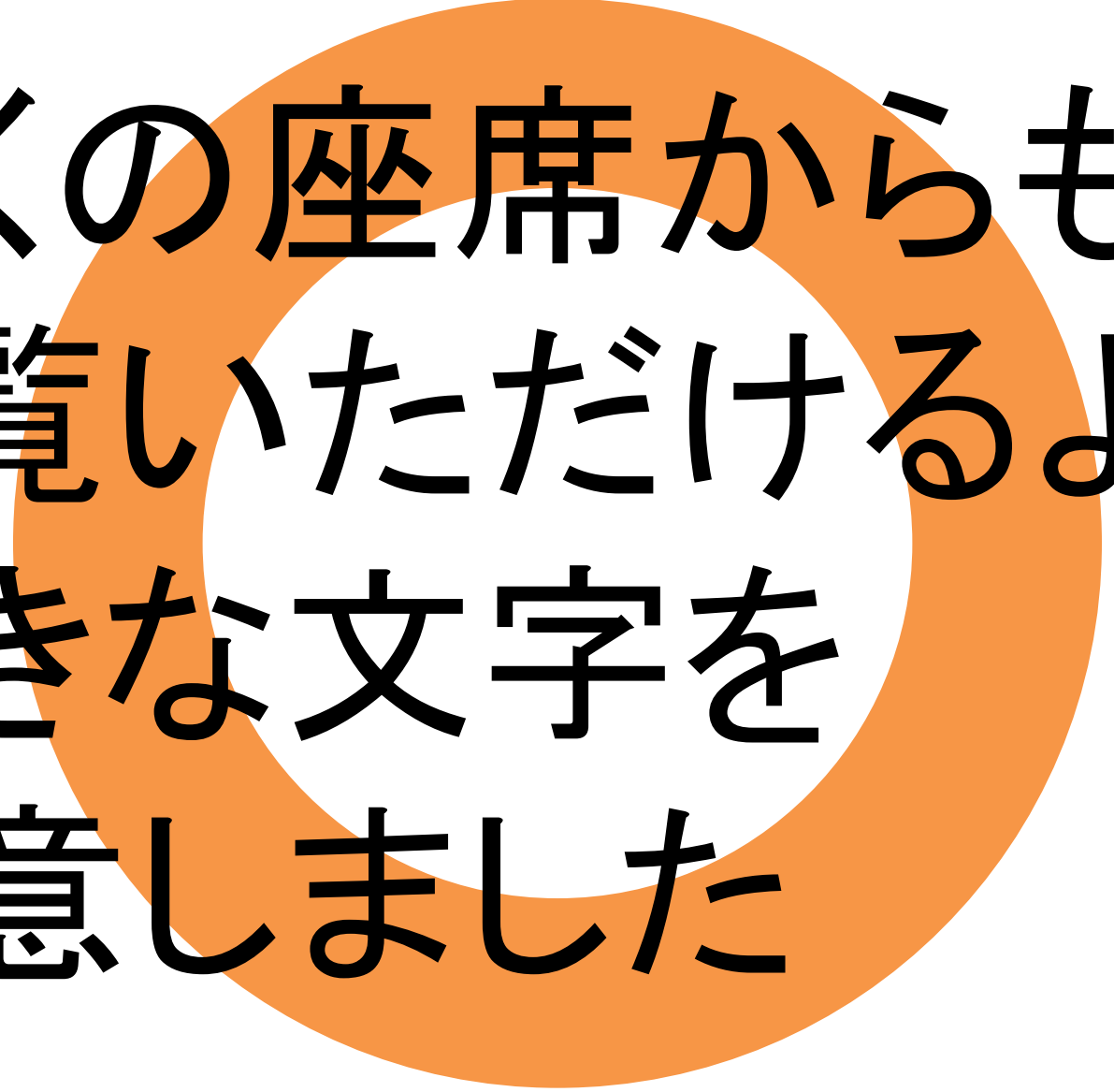
なりかわ ともひと

成川 友仁

と申します

今日 分科会には
大変多くの方々が
ご参加と聞き

遠くの座席からも
ご覧いただけるよう
大きな文字を
用意しました



遠くの座席からも
ご覧いただけるよう
大きな文字を
用意しました

さて私は

北陸・富山で
プロボノ支援団体を
主宰しています



昨年10月に立ち上げて
これまで
毎月の例会と
2回のフォーラムを
なんとか開催中です

富山は
東京の都心から
約3時間

(乗り換えなどに要する時間を含む)

大阪からも
名古屋からも

約3時間

つまり

富山は

三大都市圏

からの

距離感が絶妙な

ある意味
典型的な

日本の片田舎

ところで...

「プロボノ」
(専門ボランティア)
ということ ...

都会的なイメージ

なぜなら

プロボノ支援団体

たとえば ...

サービスグラント 二枚目の名刺

a-con

などなど

東京に

一極集中

していますね

富山は
プロボノ
未開の地？

いえいいえ 実は

富山には
すばらしい
プロボノ活動の
歴史があります！

高度経済成長期

1950年代から

1970年代にかけて

人々を襲った公害病

四大公害病として

水俣病（熊本）

第二水俣病（新潟）

四日市喘息（三重）

ぜんそく

そして富山の

イタイイタイ病

(重金属カドミウムによる慢性疾患)

被害者を救済するべく
若手弁護士を中心に

手弁当で全国各地から
つどい弁護士団を結成

イタイイタイ病の
対策協議会や
弁護団の
地道な活動により

鉦山会社を
相手どった
損害賠償裁判で
勝訴

国の公害対策をも
牽引する

画期的な

取り組みとなりました

ちなみに

弁護団長を務めたのは
地元富山の弁護士

正力 喜之助

しょうりき きのすけ

おじは
読売新聞社の
社主を務めた
正力 松太郎

(プロ野球の正力賞でおなじみ)

正力弁護士自身も
一時期地元で
町長を務めるなど
名士中の名士

いわゆる体制側からの
切り崩しも多かったが

公害裁判を**貫徹**！

イタイイタイ病裁判から

私たちが
学べること

地域キーパーソン
(鍵になる人物)の
巻き込みがカギ!

この点 社会人の
ボランティア意識調査
からも
有益なヒントが
得られています

地方でボランティアに
取り組む**動機**となる
「自分の住む
地域への貢献意欲」

(a-con/二枚目の名刺 調査資料p.6)

活動のきっかけとして
「会社・学校の
ボランティアプログラム
への参加」が
地方の40代以下で多め

(a-con/二枚目の名刺 調査資料p.12)

住居や職場などがある
地域との関わりが
生まれやすい状況

一方で取り組みの
障害になるのは
「活動への関心・熱意が
続かないこと」

(a-con/二枚目の名刺 調査資料p.8)

地方の30代・40代で
活動から遠のく理由に
「ライフスタイルの変化」
を挙げる傾向がある

(a-con/二枚目の名刺 調査資料p.11)

やみくも

確かに 闇雲な活動は
地域の**変わり者**

(富山方言でいう“みゃーらくもん”
～身楽者/身軽な者に由来～)

として孤立してしまう
おそれ

一人で参加するよりも
「友人・知人・家族などと
一緒に参加したい」
意識が地方では高め

(a-con/二枚目の名刺 調査資料p.25)

孤立しないため

求められる

仲間づくりと

つながりづくり

うれしいことに 現在
富山では

法律職以外でも
いろいろな職種で
プロボノ活動が拡大中



富山プロボノフォーラム

「あなただからできること。」で社会に貢献したい人、集まれ!!

プロボノ(Pro Bono)とは、仕事で培った専門的な知識や技能を社会のために役立てるボランティア活動のことです。

2011

イラストレーションに
登場する人々には
それぞれ**実在**の人物を
対応づけ可能です！

(詳しくは私のフェイスブックご参照)

地域キーパーソン
という観点から
ひとつ事例を
紹介します

私がプロボノ活動に
関わったのは
児童福祉の取り組みが
きっかけですが ...

今日も 私の仲間が
富山の子どもたちと共に
広島の全国大会に
プロボノで
参加しています



リーダーは
子育て本の
ベストセラーで
知られる



精神科医の 明橋 大二さん

あけはし だいじ

(富山県射水市)



2009年11月

富山での全国大会

(子どもの権利条約フォーラム2009)

開催時
には ...



おもに富山県内で
子どもたちの権利擁護や
子育て支援に関わる
個人や団体の

地域内連携を促進

さらに

東京の呼びかけ団体や
全国大会開催地
(仙台・広島など)および
近隣県の活動との

地域間連係を促進

専門領域での
実績を備えた人が
地域に出ることで
つながりづくりに
大いに貢献しました

もうひとつ
仲間の事例を
紹介します

ヤマシナ印刷 株式会社

専務取締役の

山科 森さん

やましな しげる

(富山県小矢部市)



従業員10名の
中小企業にも
かかわらず

会社のホームページで
「プロボノを推進」
「マイプロジェクトを支援」
と明言！



かつて経営が
苦しくなったとき

最後の恩返しにと
地域貢献（プロボノ）を
実践したところ ...

会社の業績も
回復

印刷業の強みを
いかして
各種の地域活性化
プロジェクトに
関わるうちに ...



彼自身が
地域リーダーと
目される存在に！

北陸三県 ありがとうプロジェクトでの 「ありがとう」集め

(山王祭にて)



さらに各種催事では
感謝のメッセージを
撮った写真を
その場で印刷する
「ありがとう新聞」を発行

感謝の言葉の発信は
東日本大震災の
被災地でも見られ

取り組みの

先駆性・普遍性が実証

これはイイ！と思える
取り組みは
普遍的価値をもちます

地方発のプロボノ活動
の可能性を模索したい



富山プロボノカフェ

<http://www.facebook.com/toyama.probono>